

# 風邪に関して

はたのクリニック  
眼で見る病気シリーズ  
2020年2月 第1版

1. 風邪ってどんなものなの？
2. 風邪の原因は？
3. 風邪になるとどうなるの  
(どんな症状があるの)？
4. 風邪の治療は？
5. その他  
それって本当に風邪なの？  
重症例を見落としていませんか？

# 1. 風邪ってどんなものなの？

一般的に、鼻、のど といった上気道の急性感染症(急性上気道炎)および気管枝などの下気道の急性感染症(急性気管支炎)を含めて、「風邪」「風邪症候群」「感冒」といわれています

このため、鼻汁、鼻閉などの鼻症状、咽頭痛などの咽頭症状、咳、痰などの下気道症状の3系統の症状が「同時に」「同程度」みられ、通常発症から3日前後をピークに7-10日間で軽快します

また、狭義の「急性上気道感染症」ばかりでなく「上気道から下気道感染症」を含めた広義のものとして用いられることあり、こういった気道症状だけでなく、急性の発熱や倦怠感、種々の体調不良をふくめて「風邪」と称することもあります

## 2. 風邪の原因は？

風邪を先に述べたような、「急性気道感染症」とした場合、その原因微生物の大部分はライノウイルス、コロナウイルスといったウイルスであるといわれています

多くの風邪症状は、7ー10日前後で一旦軽快することが多いのですが、その後さらに症状が悪化するような場合には細菌感染も併発している場合があります

またこれらの急性気道感染症の中には、急性咽頭炎、扁桃炎におけるA群β溶血連鎖球菌(俗にいう溶連菌)や、急性気管支炎におけるマイコプラズマなどの微生物が原因の場合もみられます

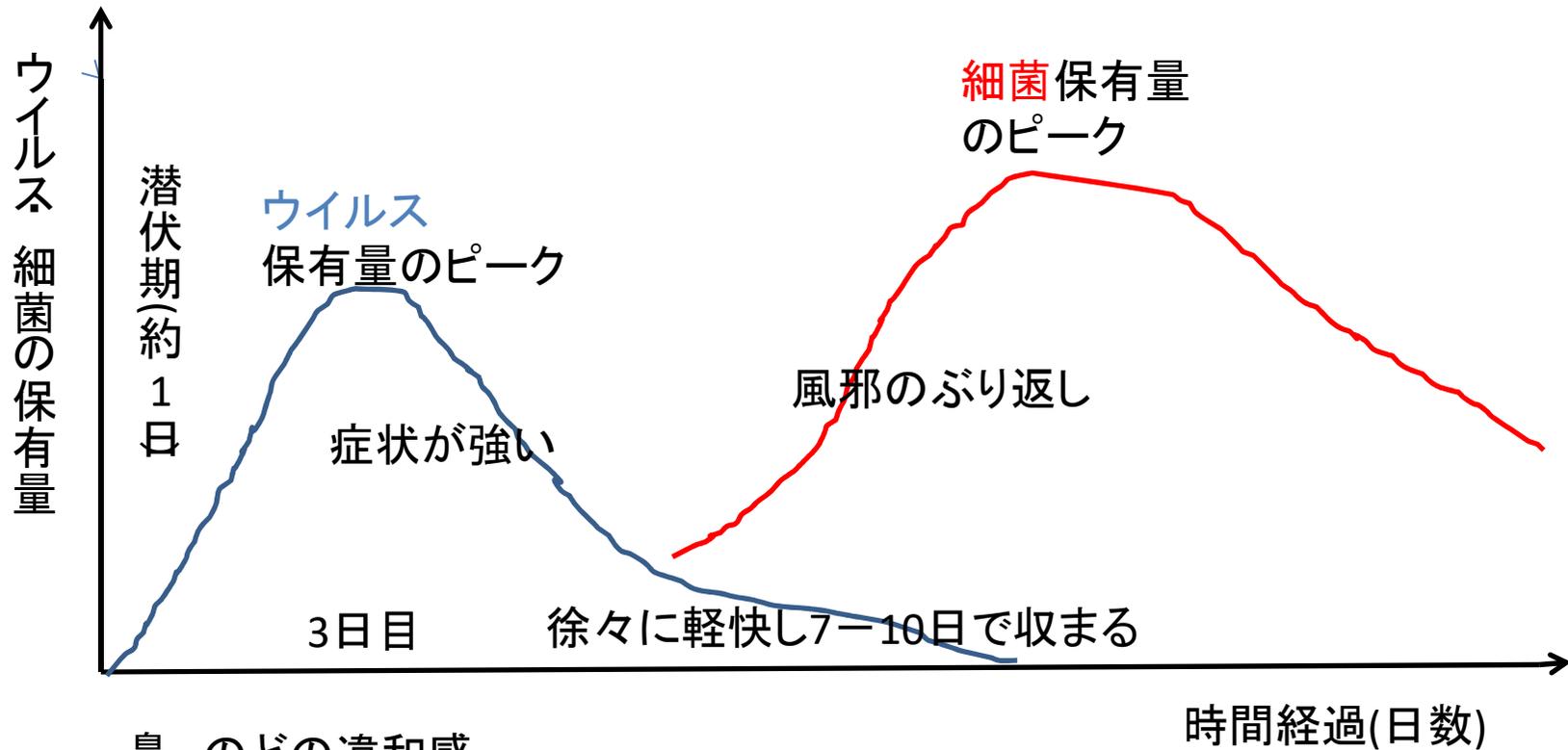
### 3. 風邪になるとどうなるの？

風邪になると、典型例では、まず微熱や倦怠感、咽頭痛などの症状で始まり、続いて鼻汁や鼻閉、その後には咳や痰などの症状が見られます。これらの症状は発症から3日目前後にピークを認め7-10日間で軽快していく場合がほとんどです

こういった普通みられる経過から外れて、症状が悪化したり、一旦よくなった症状が悪化する場合には細菌感染の合併があるものと思われます

また、膿性鼻汁、鼻閉などの鼻症状が主体である場合には「急性鼻副鼻腔炎」、咽頭痛、首のリンパの腫れなどののどの症状が主体の場合には「急性咽頭炎」、咳、痰などの下気道の症状が主体の場合には、「急性気管支炎」になっていることが疑われます

# 風邪症状の自然経過



鼻、のどの違和感

発熱、筋肉痛、倦怠感(全身症状)

くしゃみ、鼻水、鼻つまり(鼻症状)

のどの痛み(咽頭症状)

咳、痰(下気道症状)

# 急性気道感染症の病型分類

病型	鼻汁・鼻閉	咽頭痛	咳・痰
感冒	△	△	△
急性鼻副鼻腔炎	◎	×	×
急性咽頭炎	×	◎	×
急性気管支炎	×	×	◎

急性鼻副鼻腔炎

強

鼻症状

感冒

下気道症状

咽頭症状

強

急性気管支炎

強

急性咽頭炎

◎は主症状

△は際立っていない程度

×は症状なし—軽度

## 4. 風邪の治療は？

原則:

ウイルスによる上気道炎であり、対症療法が主体  
患者自身の生体防御反応によって自然治癒する

1. 安静、睡眠、保湿
2. 有熱時の冷却
3. 栄養と水分補給
4. 風邪薬の内服  
(解熱鎮痛薬、咳止め、去痰剤など)

などで1－2週間で治癒する

前記した「風邪」のほとんどは、ウイルスによる急性上気道感染症であるため、鼻汁、咽頭痛、咳などの症状を緩和する薬を用いる対症的治療が主体になります。一般的な「風邪」に対しては抗菌薬(俗にいう抗生物質)はほとんどの場合必要としません(抗菌薬は細菌感染に対しては有効です)

細菌の二次感染に対する予防効果はわずかに認められますが、その効果は必ずしも大きくはなく、抗菌薬の副作用(下痢、発疹など)がみられることもあります

このため、「風邪」に対する抗菌薬の無計画な投与は、耐性菌の出現頻度を高め、医療経済上もマイナスの点が見られます

ただし、通常の風邪と異なる場合(中耳炎、副鼻腔炎、溶連菌感染、気管支炎などの中等度、重症例)には、抗菌薬を適正(種類、量、期間)に使用し対応します

# 急性気道感染症の診断と治療の手順

感冒：鼻、のど、咳症状が同程度

急性鼻副鼻腔炎：鼻症状がメイン

急性咽頭炎：のど症状がメイン

Red Flag: 著しい痛み、嚔声、呼吸困難、開口障害  
扁桃周囲膿瘍、喉頭蓋炎などを考慮  
突然発症、嘔吐、所見に乏しい  
心筋梗塞、SAH, 頸動脈解離など  
A群β溶血性連鎖球菌【GAS】迅速抗原検査

急性気管支炎：咳症状(3週以内)がメイン

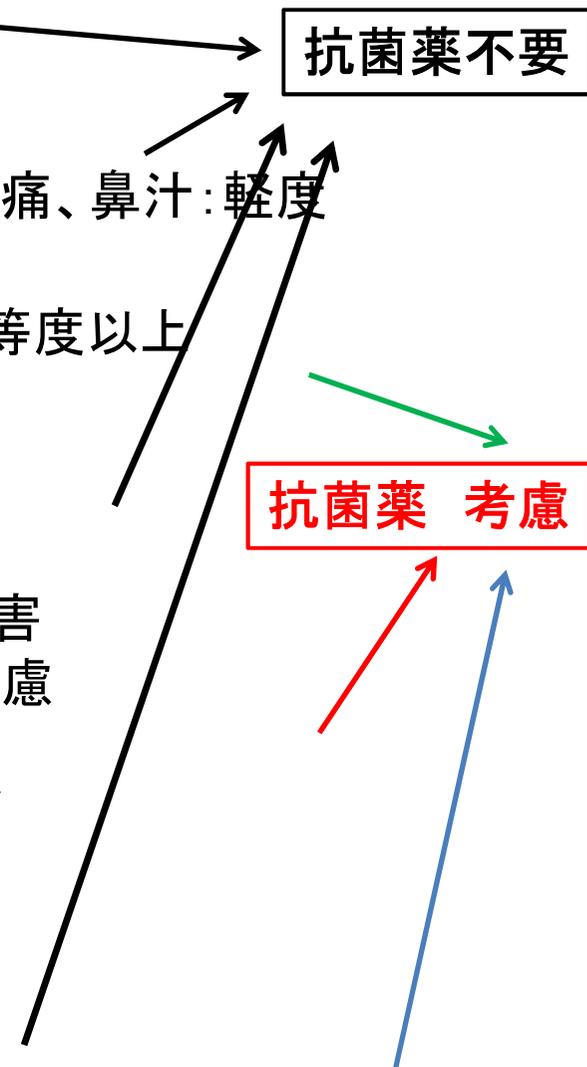
肺炎との鑑別：バイタルサイン、胸部聴診、胸部XP

抗菌薬不要

鼻漏、顔面痛、鼻汁：軽度

鼻漏、顔面痛、鼻汁、後鼻漏：中等度以上

抗菌薬 考慮



# WHOの行っている急性呼吸器感染症

最小の診断機材と限られた量と種類の抗菌薬などの治療材料を用いての有効な診断と治療診断においては限られたものしかない

患者の問診と全身状態の観察

最も重要なものは、水分摂取の状況と栄養状態の把握、呼吸数の測定、呼吸状態、特に肋骨陥凹の有無、

2か月5歳の小児:脱水、低栄養、けいれん等は入院

肋骨陥凹あり:入院など

肋骨陥凹なし:呼吸促進、肺炎疑いにて**抗菌薬投与(ペニシリン系)**

呼吸促進なし、高熱あり、アセトアミノフェン投与

呼吸促進なし、発熱、水分補給、

必要によって気管支拡張剤

扁桃膿瘍、溶連菌感染、中耳炎合併時: **抗菌薬投与**

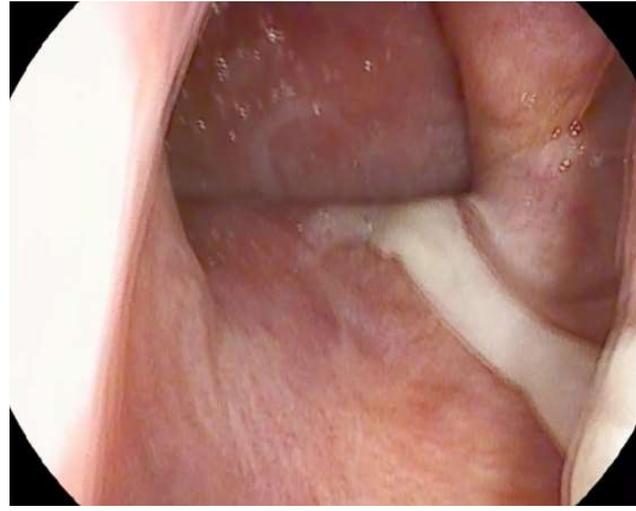
原則として、風邪と考えられた場合はほとんど治療を要せずに経過観察を保護者に指示する

## 軽症例に潜む重症感染症 (Red Flag) の鑑別

軽症感染症	鑑別必要な重症	所見、注意点など
1. 咽頭炎	扁桃周囲膿瘍 頸部膿瘍	開口障害 頸部腫脹 など
2. クループ	急性喉頭蓋炎	sniffing position 含み声
3. 中耳炎	乳突洞炎	耳介聳立 顔面神経麻痺
4. 副鼻腔炎	眼窩合併症(膿瘍) 頭蓋内合併症(膿瘍)	眼球突出、視力障害 意識障害、頭痛
5. 膿痂疹	壊死性筋膜炎 蜂窩織炎	急速な進行 全身状態

これらの症例に対しては適切な抗菌薬の投与と共に、必要に応じた切開排膿処置、気道管理が必要になります

## 急性副鼻腔炎



中鼻道に粘膿性鼻汁を認める  
上咽頭へと流下して後鼻漏となっている

通常の上気道炎の後、感染徴候が悪化し鼻汁が粘性、膿性となり、周囲の腫脹疼痛を認めます

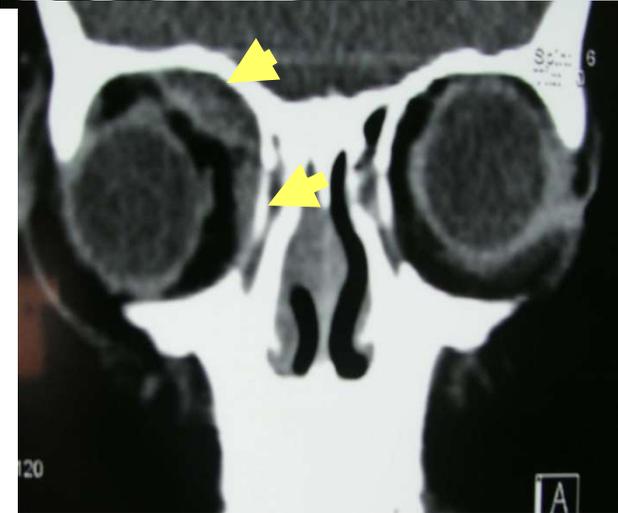
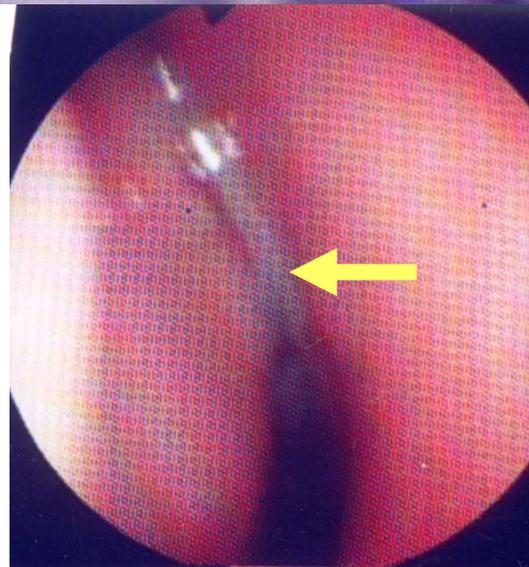
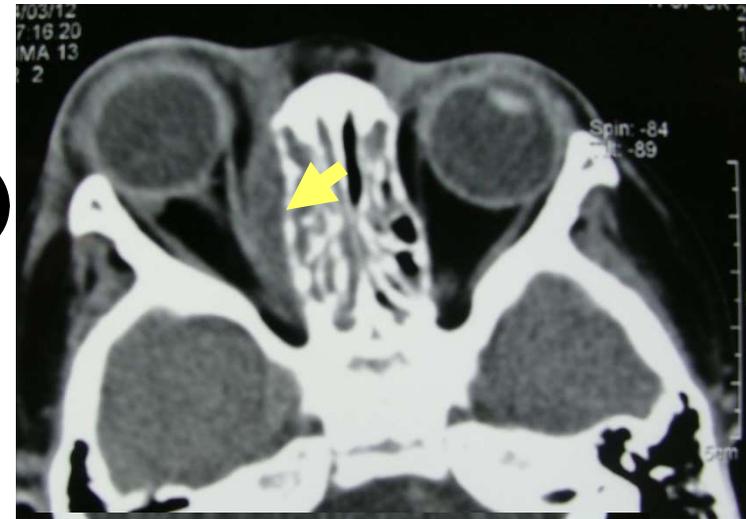
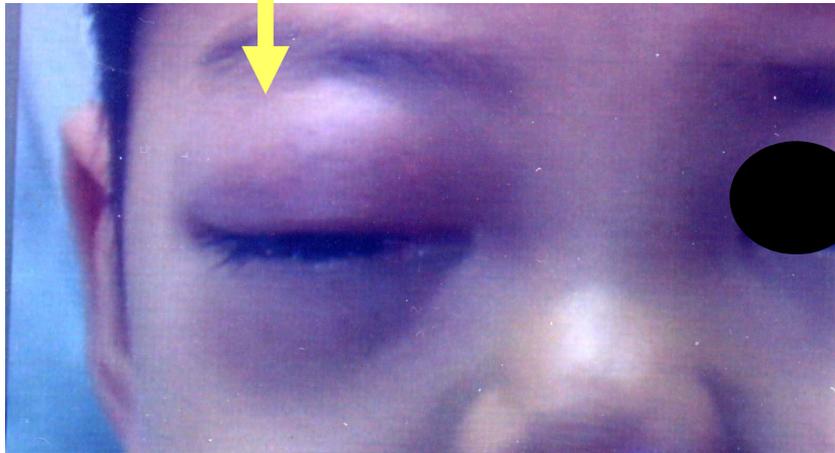
ウイルス感染によるものもあるが、細菌による二次感染をきたすようになると膿性鼻漏となります

鼻漏、鼻閉以外に眼窩周囲の腫脹、疼痛や上顎部や前額部の疼痛をきたすようになります

鼻粘膜の充血を取り、鼻腔を広く開存する局所処置と共に、**抗菌薬**を併用します

原因菌としては肺炎球菌、インフルエンザ菌などによる事が多いため、これらに対する**抗菌薬**を使用します

## 副鼻腔炎による眼窩合併症：骨膜下膿瘍

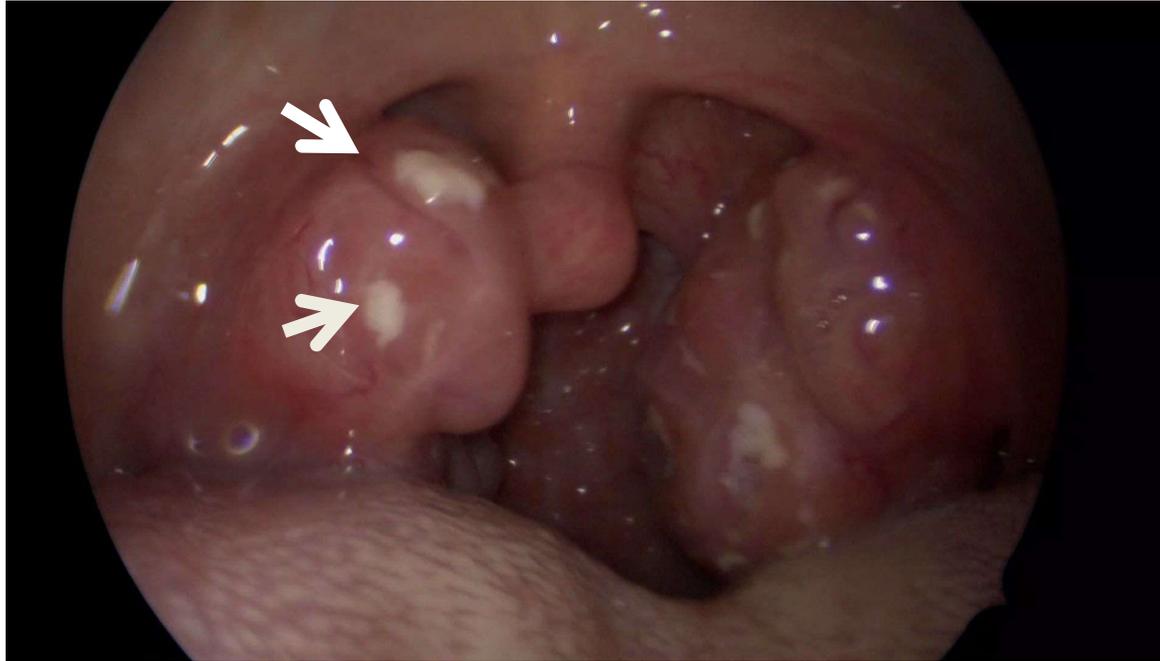


急性副鼻腔炎からさらに炎症が眼窩内に波及し目の周囲(骨膜下)に膿が貯まった状態です

眼が腫れてしまい、眼があけられなくなっています

抗菌薬の使用と共に必要に応じて手術を行います

## 急性扁桃炎（溶連菌感染症）



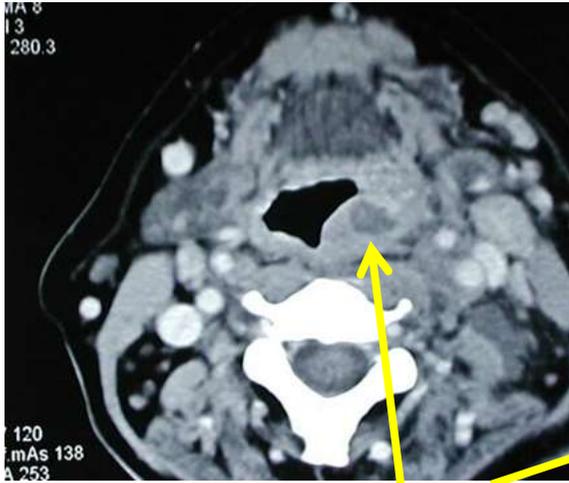
細菌感染で多くみられるA群β-溶連菌による急性咽頭・扁桃炎です  
症状の特徴は、口蓋扁桃の腫脹・発赤、白苔、軟口蓋の強い発赤と 莓舌、  
強い咽頭痛などです

また、鼻漏、咳、嗄声、結膜炎などが少ないことも特徴です

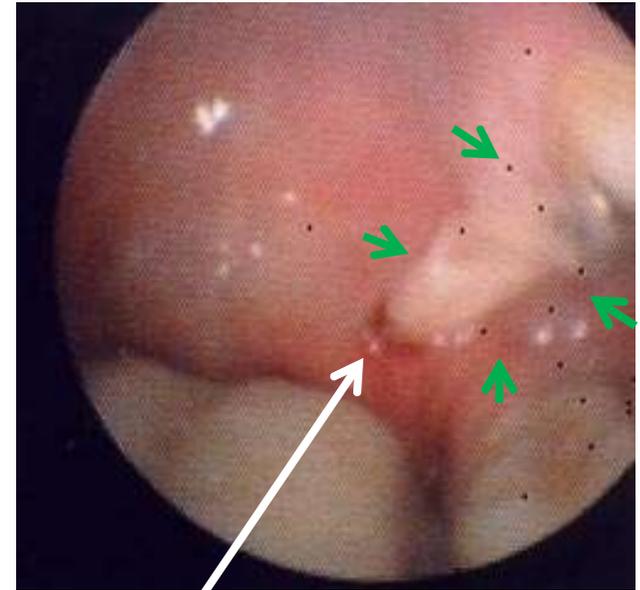
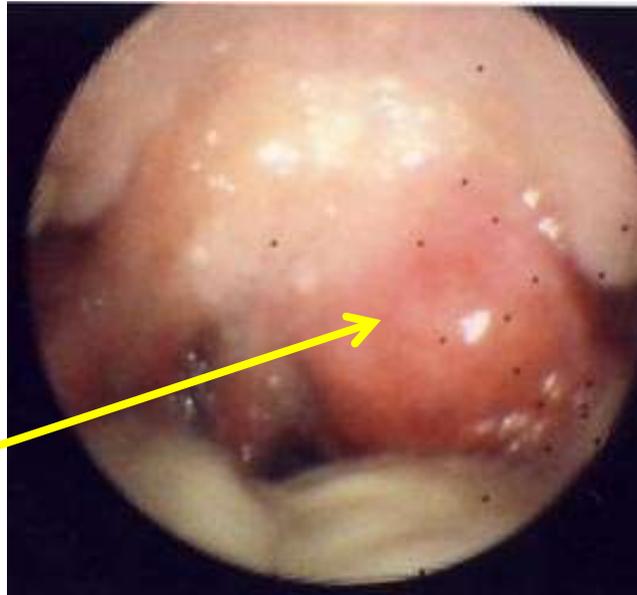
咽頭ぬぐい液を用いた迅速検査で、溶連菌かどうかを数分で判定できます

治療は、抗菌薬（ペニシリン、セフェム系など）を5-10日間使用します

## 扁桃周囲膿瘍



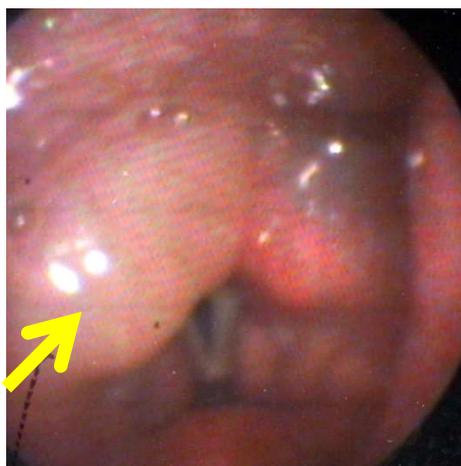
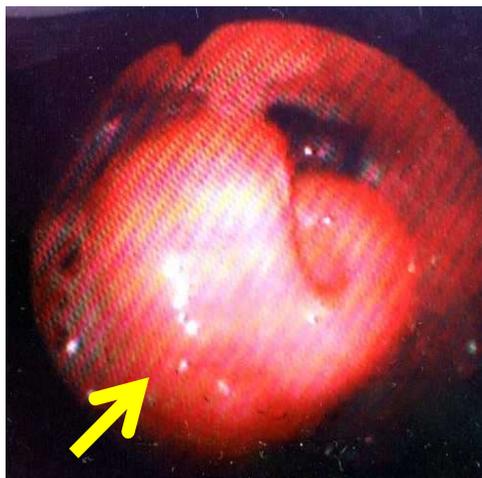
左口蓋扁桃の外側に膿が貯まり腫れている



切開部から膿(緑矢印)が出ています

口蓋扁桃の周囲に膿がたまった状態です  
膿が貯まるほど強い炎症を起こしているため、のどの痛みが強く  
うまく飲み込めなかったり、息苦しくなってしまうこともあります  
たまった膿を針を刺して抜いたり(穿刺)、少し粘膜を切って(切開)膿をだした  
うえで抗菌薬の治療をしっかりとします  
息が苦しくなるほどのどが腫れている場合には、気管切開といって空気の  
通り道を確認するための手術処置が必要となる場合があります  
必要に応じて入院加療を行います

# 急性喉頭蓋炎



正常喉頭

喉頭蓋(声帯の上方にある軟骨を含んだ蓋状構造物)は普通に口をあけた状態ではなかなか見ることができません

急性喉頭蓋炎は、細菌感染により喉頭蓋におこった急性化膿性炎症であり、喉頭蓋の腫脹と共に喉頭披裂粘膜など周囲組織の浮腫状変化をきたし、急激に進行し呼吸困難を来し致死的になることもあるため注意が必要な病気です

通常の上気道炎に比べて強い咽頭痛、嚥下痛をみとめ、含み声、進行例では呼吸困難を伴います

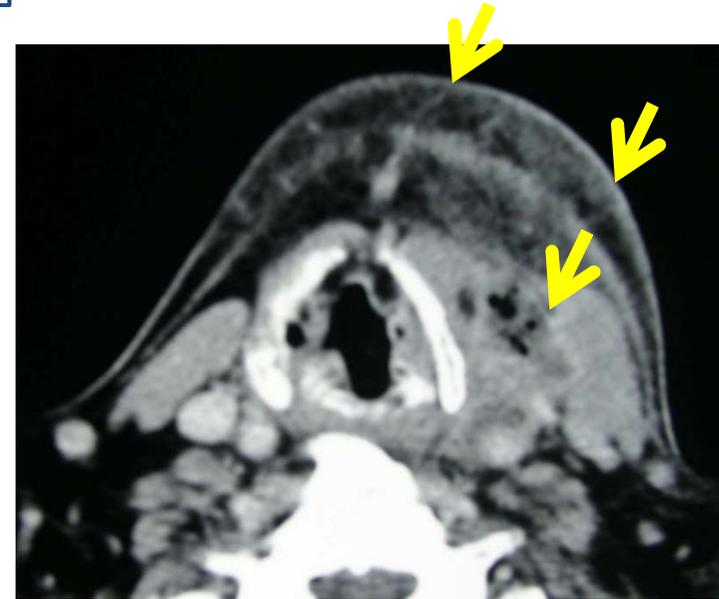
局所の腫脹の程度と呼吸状態(呼吸困難など)によっては、気管切開などの気道確保が必要となります

抗菌薬およびステロイド、吸入加療などを行います

呼吸を含めた全身状態によっては全身管理が必要なため、入院加療を行います

## 頸部膿瘍

顎下部を中心とした  
頸部の発赤  
と腫脹を認める



頸部には**間隙**という筋膜で囲まれた部分がありその中には様々な血管や神経が含まれています

この間隙に感染をきたすものが**頸部感染症**であり、当初局所の**リンパ節炎**で発症し、進展すると**蜂巣炎**さらに**膿瘍形成**に及びます

歯牙や口腔咽頭病変からの感染が原因のことが多くみられます

軽症では**抗菌薬**の投与で軽快しますが、重症例では**切開**の後しっかり**排膿**することが重要であり、気道狭窄を伴う場合には**気管切開**などの**気道管理**が必要です

**重症化**すると、敗血症、DIC, 縦隔炎へと進展するために比較的炎症が限局している間に治療することが重要です

# 風邪は万病のもと

それって、本当に単なる風邪ですか？

見落としていませんかRed Flag 症例？

風邪症状を示す方にも適切な診断を行い、  
必要な場合には、適切な抗菌薬使用を

